

序

医療の根幹をなす臨床検査のなかで、検体検査の大部分を占める血液検体検査の重要性は論を俟ちません。そして、血液検体採取の手技である採血は、日常診療において昔から実施され、現在では最も高頻度に行われている医行為の1つです。まさに、採血にかかわる知識や手技は、血算、生化学検査など多岐にわたる血液検査の品質・精度を保証するための礎であるといえます。また、採血は今や、検体サンプリングのプロフェッショナルである臨床検査技師の重要な任務ともなっています。

一方で、採血は侵襲的な手技であり、リスクマネジメントの観点から極めて大切であるとともに、患者接遇面でも多大な配慮が必要となります。また、適切な採血室の運営は、患者サービスや病院機能評価・ISO 15189 認定など、外部評価の観点からも極めて重要です。的確な採血ならびに採血室の運営は、臨床検査領域において大きな課題であるといえるでしょう。

採血の手法・手技、そしてよりよい採血室の運営は日進月歩であり、他の検査技術と同様に、新しい知識・情報を取り入れることが必要です。しかし、市場に医療情報があふれる昨今においても、採血・採血室運営におけるわかりやすいマニュアル・解説書は決して多くはありません。本書は、そのようなニーズに応えるものとして企画・発刊されました。

本書では、採血の基本はもちろん、新しい進歩も十分に取り入れ、また、わが国の採血のガイドラインである『標準採血法ガイドライン』(日本臨床検査標準協議会)の最新版にも準拠させています。

採血を実施する、また、採血室の運営にかかわる臨床検査技師、看護師、医師など、多くのメディカルスタッフに本書をご活用いただき、安全で質の高い採血の実践にお役立ていただけることを願っています。

企画者一同